

# ボールの特性レポート BALL REPORT



ボール名 ハニーバジャー・エクストリーム ツアーエディション	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.540	△RG 0.048	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：ハニーバジャー・エクストリーム ツアーエディション**

フレアーの幅  
[ ] インチ

PAPからピンとの距離  
4 インチ

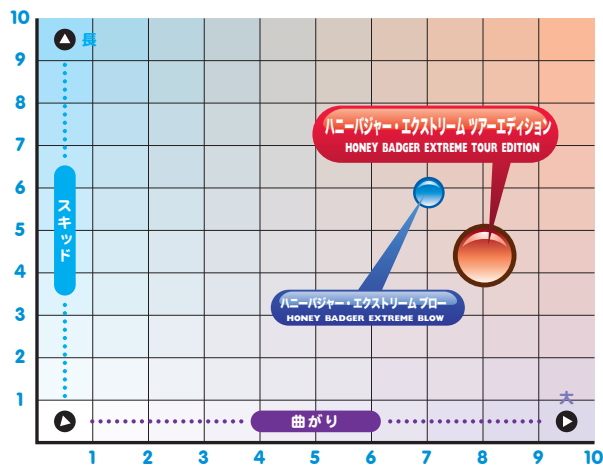
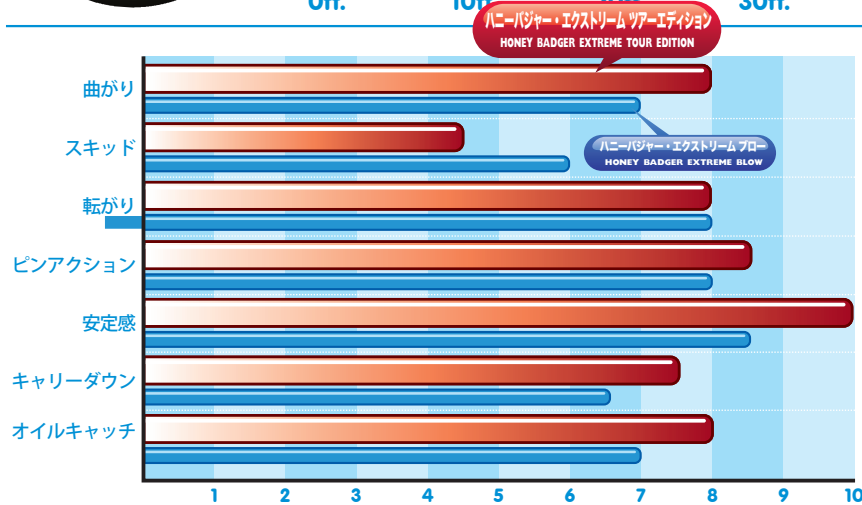
表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

**比較対照ボール：ハニーバジャー・エクストリーム ブロー**

フレアーの幅  
[ ] インチ

PAPからピンとの距離  
4 インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤



## ボールの評価

今まで作成されることのなかった禁断の領域のボール。900Globalのミディアム領域をこのブランド一つで受け持ってきたHONEY BADGERシリーズがReserve Blend 700で最高峰のS79カバーストックを纏い、TOUR EDITIONとして日本オリジナル製品で発売されます。注目すべきはユタ工場ではじめての79領域のカバーストックであることでしょう。本来HONEY BADGERシリーズは光沢のある表面加工を中心として先の動きを意識した性能がほとんどでした。そして今回強いカバーのSolid素材、2000Grit Abralone加工のスペックを採用した経緯には特別な意図があります。ツアーコンディションはもとより、コンディション全般において先の動きがあるボールも必要ですが、変化の過程で手前のオイルを使いながら投球して削られた少し中目を投球しなければならない状況があります。その場合オイルを使い過ぎると極端に曲がりが少なくなり、それと並行してオイルのない部分に触れ過ぎて曲がりが出過ぎてしまう場合も出てきます。その時に強いSolidと少し粗目の表面加工の領域だと、まず内側のオイルに対しての強さが出せ、削られたオイルへの過剰反応を抑えることができます。光沢のあるボールよりも遥かに扱いやすくラインが取りやすくなるのは周知の通りでしょう。そしてHONEY BADGERの代名詞でもあるGrapnel 2.0 Asymmetricコアが駆動を支えることで、安定感の中に軸移動が生まれ、ポケットへ浅いようでも軸は飛ぶ方向へ移動できるので、結果10本飛ぶのが投球すると分かるでしょう。今までのHONEY BADGERシリーズのようにガッツリキレルイメージではありませんが、投球すると如何に安定してラインを描くことができるか身をもって感じることでしよう。

## 特記事項

**強いカバーとSolid素材で、オイルの中と削られたドライエリアの反応の差を少なくし、扱いやすさと高いコントロール性能を求めました。**